朝鮮日報

紀元二千五百六十五年
韓曆光武九年
陰曆[illegible]

定價 壹ヶ月 金參拾錢 [illegible]
廣告 五號活字十九字詰 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible]
印刷人 [illegible]
發行所 朝鮮日報社

社説

露西亞と平氏

尾高 [illegible]

祇園精舍の鐘の聲、諸行無常の響あり、沙羅雙樹の花の色、盛者必衰の理を現す、驕れる者久しからず、只春の夜の夢の如し、猛き人も遂には亡びぬ、偏に風前の燈火に同じとかや、實に古來幾多の帝國、英雄、豪族、皆此來れば孰れか夫れ草頭の露に如かん。

驕る平氏の久しからで憐れ壽永の秋風に一門の榮華夢と覺めて、無限の恨を西海の煙波に留めてより、秋風春雨一千年、今や端しなくも世界の史上に當年の平氏を想起せしめんとするもの、實に是れ現代最大强國たる露西亞帝國の運命にあらずや。

露西亞を征討する我日本帝國は固より當年の源氏にはあらざるも、彼の露西亞なるものも亦今の世界の平氏にはあらざるか、世は吾世なり、人は平氏にあらずんば人にはあらず、露國の驕慢不遜なる、開戰以前ザアーが外國使臣に喝破して、吾國は世界の大國なるを知らざるかと放言したりと傳ふる如き、亦清盛入道の面影を想はしむるなしとせず、神は天に在りて宇宙を攝理す、ザアーは地上の世界を主宰すべきものたり、露國は終に世界を統一せざるべからずとは併吞侵畧を國是とせる露國の本領ならずんばあらず、當年平氏にあらざれば治者の列に入るべからざるが如く、露國も他の列國を以て被治者の地に逐はずんば止まず、平氏の源氏を窮逐迫害せるは猶ほ露國の猶太人フィンランド人波蘭人に於けるが如し、キシネフ虐殺の如き露國に於て何の叛々を須ゆべき、西比利亞の野は是れ當年の鬼界ケ嶋なり、幾多の丹波の少將、康頼入道俊寛僧都は虚無黨、革命黨より出でたる重罪犯と見るを得んか、足摺の事、有王島くだりの事の如き悲劇は朔北の野に蓋し其例乏しからじ、露國に於けるウヰッテ其他多少の文治的人士の稍々重盛の賢に比すべきもののなきにしもあらず、重盛は憤死に殆く、ウヰッテは要地に去る、而して露國の驕慢無道は依然として今は我が王師の膺懲に會ふ、西海の波に沈める平氏の運命は早く既に目前なり、鴨緑河畔、緒戰を以て[illegible]合戰に比せば、[illegible]の陷落、旅順の開城は是れ一[illegible]にあらずとせんや、奉天、[illegible]知らず孰れか是れ八島、孰れか是れ檀之浦なるか、今の露國の運命を回憶すれば、敵ながらも[illegible]、轉た平氏の末路を憫れむの情に堪へず、世上思ふ故を此に同ふするもの亦少なからざるべし。

傳へ聞く、露國帝都に於て虚無黨の人士が數々の事實を發表せりとか、そは今回の露皇子は實は一[illegible]夫の兒なりとなり、事の眞僞殆んど之を判ずるに由なしと雖も、而かも其の平の宗盛が傘屋の子なりとの傳說と恰似せるも亦一奇ならずとせんや。

●門司特報（三月六日 特派員發）

▲北韓の敵情

四日〇〇地點を發し本日歸來せし某將校の談に曰く、北韓に於ける敵は自ら城津の線を維持して北退せりとは既報の如くなるが由來敵の威鏡道に襲來せしは全く我軍を阻止せんとの目的にあらずして單に威嚇的牽制に外ならず何となれば彼等は到底露の防禦工事を施せるものなく韓人の家屋に舍營し哨兵の報告に依りて其進退を決するの狀況なれば城津に於けるコサック騎兵は馬西千五六百頭を有し居りしに過ぎざれば素より決死の鬪志なく風聲鶴唳にもろの心膽を冷して戰ひ從つて退却し今や城津の北方吉州（此間約九里）附近には敵の後影を認むる能はざるに到れり土人の言に依れば敵は今や豆滿江沿岸迄退却したりと然れども城津より約三十里北方鏡城方面には尙多少の敵兵を止むるもの、如し現に本月三日午後五時半頃コサック兵三騎我哨兵線なる重直隅（城津より約二里）の前面八百米突の高地に顯はれたるを以て此數日前に於て我には增援隊の來着せるありて士氣頗る旺盛なるより敵の斥候を發見せしも猶其の接近するを待ちて一齊に鏖殺し盡さんものと影を潜めて待ち居たりしに敵は早くも一齊射擊を爲したるまゝ直ちに吉州方面に向つて疾走せしかば恰も當中の王を失ひたりし心地せし我軍は直ちに此の退却の敵に向つて追擊せしも彼れは騎馬我は徒步況して朝來より降雪は展望を阻害して遂に之を追及するを得ずして當陣地に歸還せり

元來敵の斥候隊を派するや先づ一二名の韓人を嚮導となし何れも馬上にて其間約一千米突を隔てゝ進來するを常とす斯くして[illegible]我兵を認むるか彼は直ちに後退して後續斥候隊に報告するを以て一行は決して衝突點以外に襲來せざるなり目下城津地方は平穩に復歸したり始め露兵の通過するや韓民は戰々兢々としきより土民の何れも避難移轉する狀況なりしも我軍は之れに反し毫も秋毫も侵す所なきを以て彼等も謳歌悅服し各其堵に安んずるに至りたり而して我居留民も漸次歸津し居れり

▲兩將意見の衝突（二十三日戰線を脫し本日歸來某將校の談）

黑溝臺に於ける會戰は敵は斯くまでの大激戰を爲すの豫定ならざりしなり去る二十日に於て我に投降したるもの並びに聯隊の旗に依て徵すれば當時敵の師團長ミスチエンコ將軍は我が左翼方面の兵員砲門及其防禦の如何を偵察すべく所謂偵察戰を爲すの計畫なりしにクロパトキン將軍は始め我軍が敵の右翼を壓迫して[illegible]附近の防兵線と連絡し沈且堡方面の陣地に復せるを見機乘ずべしとなし漸次其兵力を增加し一擧以て開戰以來の恥辱を雪がんと欲し頻りに攻勢を取りしに我新銳兵の惡戰苦鬪に辟易し其目的を達する能はざるのみならず却て多大の損害を蒙り士氣の沮喪をして一層盛ならしむるに至れり於此乎ミスチエンコ將軍は己が先見の明をして確かならしめたるを遺憾とし「クロパトキン」將軍と激論の末遂に本國に歸還するに至れり而してクロパトキン將軍は露軍がよしや全滅するとも一歩も今の陣地を退却せずと豪言し居る由なり

▲第四回敵兵鐵道破壞の詳報

我後方連絡線鐵道の破壞を企て而も一回だにも其企圖を放棄するに忍びず機の乘ず可きあらばと只管隙を伺ひつゝありしに二月十九日に至り當時大石橋並びに海城方面に駐屯し居りし我〇〇〇隊の兵は守備軍と交代前進せしを支那間諜によりて探知せし敵兵は遼河以西の叢梢伏地點を發し巧に我監視を避け鐵道線路の附近なる或部落に潜行し來り此處に馬を止め徒步にて近接し練着距離內に潜れしはコサック兵二百餘騎二十日の午前第一時我守備兵に向て亂射を試みたり敵の亂射たる素より我守備隊を襲擊するの目的にあらずして單に一の牽制運動に過ぎざりしも此亂射の間を利用し一部の敵は海城大石橋間の第一鐵橋（四丈餘）に索縄を垂下し是によりてダイナマイト（爆藥）四十基以上を裝塡し導火線に火を點するも北に後方に向け逃亡せり此時我守備兵は其兵力甚だ僅少なるにも係らず雖なく逆襲の敵を狙擊せしが全日午后附近に於て二名のコサック騎兵が午睡し居れるを發見し一名は逃走し他の一名並びに馬三頭を擒り破壞鐵橋の側に於て三十一日の夕刻之を銃殺せり而して我の損害は鐵橋破損の外は守備兵一名左腕に銃創を被りしのみにて鐵橋も列車の交通を停止するもの僅かに三日間にして充分に復舊せり

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

一、郵便、電信、電話

本邦の郵便、附韓國の郵便

釜山に於て始めて本邦郵便制度を實施せられしは開港後間もなき即ち明治九年十一月にして當初帝國領事館內に其事務所を設けられ本邦汽船浪花號は毎月一回本邦釜山間を往復して信書の通達をなせり後同十一年十一月以降本邦郵便船は毎月一回なれども神戶、馬關、長崎五島、對州間の通航を開始し一層の便宜を增進し十三年五月には金高三十圓迄を限り釜山本邦各地間の郵便爲替を取扱ひ同七月には更に郵便貯金を始められたり又同二十年よりは領事館內の郵便局を西町に移設したる電信分局に移し郵便電信局と改稱する等漸次本邦に於ける郵便制度を施行せられ現今に及びては海には漁業者の爲めに巡廻船の巡航郵務を司るあり陸にありては京釜鐵道の開通と共に樞要なる地區に郵便受取所の設置計畫ある等時運に伴ふて各種機關の發展發達に鋭意努力せられつゝあり

現時釜山の郵便局の職員は局長一名通信屬十九名通信手十二名雇員十七名通信工手一名集配人十六名通信工夫三名信使二名小使五名計七十六名にして局內各掛の分掌事項を揭ぐれば左の如し

一通信掛
一郵便部　郵便及爲替貯金事務に關する一切の事項
一電信部　電信事務に關する一切の事項
一電話部　電話事務に關する一切の事項
一庶務掛　事業計畫及區內各局所の監督に關する事項並に吏員の進退其他に關する一切の事項
一會計部　會計事務に關する一切の事項

三十六年度現在釜山郵便局管轄區內に於ける出張所郵便受取所切手賣下所郵便函等の數位を示さば

種別	數位
出張所	一
郵便受取所	三
電話所	三
郵便切手賣下所	二八
郵便函	二八
私書函	二四
集信箱數	三三
配達區數	九

●戰報一束（沙河方面の書報）

▲最近の情報に依れば我最左翼の部隊は渾河の線[illegible]の背側に迫り尚攻擊前進中なるは公報に示す處なるが右翼方面に於ても沙塔馬群丹の線を占領し敵の頑强なる抵抗と相對しつゝあり斯の如くにして敵の背後約九里は已に我軍の包圍する所となりたる爲め退却の名將軍クロパトキン奉天を棄てゝ鐵嶺に退却せんと準備しつゝあるのみならず彼れは逸早く汽車にて逃走したりとの說さへ傳へらるゝに至り大動搖漸く決未奉天の我占領に歸するも近く旬日に遁れる者の如し而して奉天我占領に歸せんか敵は勢ひ我大包圍の裏川とも云ふ可き奉天撫順間に退路を求めざる可らず然れど正面は勿論兩背側に於て已に我が軍の壓迫を受け居る以上は渾石の如クロハトキンも今回は遼陽戰の如く甘味く活路を求むの道なかるべく果して那邊に活路を開くべき最近に到着すべき公報に依れば其の消息を得るに難からざるも敵の三十萬大兵は我が大包圍の裡に苦戰奮鬪少くも半數の殲滅を期せざる可らず兎に角國民の希望する大快報に接するは睫眉の間にあるべし

▲其後の情報は軍前面の敵は其一部を以て我に抵抗しつゝ其の主力は混亂して東方及び東北方に退却せしを以て軍は渾河右岸に沿へる一帶の部落を占領し俘虜は續々後送せられつゝありと

▲海軍の索敵運動はラマッカ海峽以東に於ける制海權を掌握し今や新嘉波以西に突出し日本丸香港丸等十分餘の艦船は印度洋に向て索敵運動を試みつゝあり而して將卒の士氣は尤も旺盛を極め居れりと

▲佛國書記官歸國　佛國公使より外部に通告せし所によれば同公使館書記官パゼー氏は病氣の爲め去る廿七日歸國せりと云ふ

▲佛國公使の照會　佛國宣教師ペー氏至南觀察使と多少葛藤を生ぜし事ありとて同觀察使ペー氏を捉へんとしたる事ありとかにて佛國公使は其不法を外部より詰問せり

▲家督交附の照會　米國公使は昨日外部に照會して曰く本邦人西大門外に家屋を建築したるに依り我領事館より漢城判事に向つて家券の交附を要求せしに該地は素空地に屬するを以て家券を發行す可らずとて遂に與へず米國政府は他の外人に對しては家券を交附するも獨り我邦に對してのみ家券を與へざるが遂に漢城判事に命じて家券を交附せしめられたし云々

▲高橋女醫契約　宮內府より昨日外部に照會して曰く本府官八治療の爲め日本女醫高橋裕子なるものを雇聘するにつき該謂謝書並に契約文及び同人の履歷書等送附するに付き速罷せられたしと

新体和歌

●みだれ心（紅香白紫園）　沐一鷲

○海邊に立ちてひとり思へる
狭風吹き捲き亂るゝ潮
巖に砕け狂うてかへる
潮にさまよふ心はそれの

○　白雨
朝虹消き顏をひたせば
うしほのみ胸のさうやき低く
磯になやめる小女のおもわ
まどくれなゐの血動きやすき

○　峯子
夕風うしほの髮を撫づれば
淋しき思ひ若うふるひて
失樂に泣く人のくちびる
晦の暗より死の聲かすか

○　芳村
今ぞ逆捲く異數の潮
痛くも胸にうち響くかな
かうべおくれば日の矢雲を射
神馬駒を驅りて飛びおく

○　樱溪
あな壯麗なる其の勢威や
天地寝ひうしは傾く
暗き煩悶の夢よりさめて、
希望のもとによみがへらむか（をわり）

俳句

下關　書誠

▲骨十句（春結）
風の骨流れて來たり春の川
猫の兒の骨に離むや春の樣
骨堂に線香烟むる春の雨
若草や水ある方に鳥の骨
捜犬の骨啣へ行く餘寒哉
春雨や斧の中の傘の骨
辨慶の骨の洒落たり春の水
遣や接骨醫者の門構へ
畑打の堀出す骨や氣味惡るき
茶の骨の出るや土瓶の口の春

▲春雜吟　東京　五彩洞零香
一蝶もでざれ日永のわたし船
香に花も知らるゝ梅の月夜哉
世に染まぬ色香愛たし梅の里
一と村は香の立つ梅主かな
菫咲て物思ふべき野とこりぬ
山門に鳩群れて日の暖かき

講談

仇討 武勇の譽

井竹林講演　本社員速記

宍戸安藝守殿四名を御前へ召れまして何れも邇ばれなる腕前予は感服いたして見物に及ぶしかし勝利は岩見にある大川は岩見の爲に打ち込れたる故具論する處はない成瀬も廣瀨は相打である何れも小半時づゝの試合しかるに岩見は君臣の禮を欠ずして半時の間だ試合うちたゝ一度も予の方に竹刀先を向けたおこ嫌ない大川はじめ成瀬廣瀬等は予の方に、先を向け或ひは竹刀先を向けたおとはしば／＼ある之れ君臣の禮を欠く所の不心得で之れ劔術の拙なき故また武術の拙なき故であるこゝを以て四人の中の第一と予は心得る君公に對して御指南仕まつるべきものは岩見重左衛門である三名之を殘念に思はゝ御修業をして岩見を見習ふがよろしい重左衛門は小刀を拜領の上命子まで拜領いたし上々の首尾で御前を下りました之等は考がへゝみると宍戸安藝といふ方が中々人をみるの明わりと申してもよいかと思はれます試合中に君臣の禮をかがさる所をみるといふのは行司をするものも知らぬくらゐでございます倍て重左衛門近日出立をするといふおどで跡の三名は一度ならず二度までもかゝる恥辱を受け悴れ共は重太郎を切らんとして却つて横死を遂げ自分ども御前で恥辱をうけ何うかして重左衛門をなきものにして悴の恨み自分の恨みをはらしたいとねらつて居りましたある時安藝の守ぞの御樓に重左衛門を召され成尾飛彈も其の席へ出ましたが大雪の日で雪見の御酒宴大川八右衛門成瀬が元に參りまして

八「幸はひのおとが出來た今日は重左衛門高樓に召されて御酒を賜はりまず夜でなければ戻るまい成尾様の屋敷の前邊りに待受けて切つてしまはうではないか 成「よからう之から廣瀬にも相談をしてサア來いと待受けましたさうといふおとがあらうとは夢にも辨まへませぬ重左衛門夜に入りまして御暇まを賜はり御城內を出て鷹匠町成瀬飛彈どの邸前コヽヤテかゝつてくると三人抜つれ不意に切つてかゝる何にしろ宍戸の四天王が三天王が一時に切りかけるんだから衆寡敵せずのならひ譯つては居るし雪の夜で嚴重に支度をして居ります萬事につけて不都合でございますトウ／＼重左衛門此の三名の刄にかゝつて死をとげました成瀬飛彈の屋敷のものは門前がさわがしいから提灯をつけて家六名が出てくる處へ成瀬飛彈は暇まをたまわつて下つて來た 飛「なんだ

○「イエナニ只今御門前にて切り合があつた容子でございます何ういふ容子かと心得まして出て參じました 飛「さうか成瀬が五六名のものをつれたつていつて見ると重左衛門がなますのごとくに切り仆されて居ります成瀬は心中に悦んで倍は三名が切つたに違ひない小氣味よいと心の內には思ひましたが顏にも見せないふびんなおとをいたしたゝさ頻りに偽口の容子を見たりながいたして淚をながして表向は殊勝に見へました

○「旦那樣コンナ扇がございました取て見ると南鐐細でかねて見覺への廣瀬の所持でございます之は成瀬飛彈が懷中をいたしましたが何うする所存であるか……直樣重左衛門が元へ人を走らせる重藏之に來りまして父の死骸に取りつき泣き悲しみましたが言語に盡がたひくらゐでございます之より死骸を引とり葬送終つて後ち重藏つとめ二人が敵打の出立に及ぶといふの一席………

朝鮮日報

●右翼軍の撫順壓迫 蒼子谷の占領

（三月七日午後發信）門司特派員

▲廿三日成歡出發歸客談

成歡方面の敵軍は最初四萬餘を有し居りしものゝ如くなりしも左翼線黒溝臺會戰後は其幾部分を割きて沙河線に增援せしめたるが故に現下は其の數三萬に過ぎざるが如し而して其本據撫順の地たる由來遼西の新民屯と東西に於て兩々相對し露軍糧秣集散地點たり而も撫順は獨り之れに止まらず實に敵左翼線一帶の策源地たるなり刻下嚴寒外界の冷氣は激躍の熱度を降下せしが加ふるに幾尺の積雪は其進行を沮害せる尠なからずさらぬだに輸送力不完全なる西比亞鐵道は到底四十萬の兵を安ずる糧食彈藥の補充を十分ならしむると能はず爲めに敵は我が左翼面に於て天津秦皇嶋らの新民屯を經由し糧々糧食の密輸入を爲しつゝあると同時に一方撫順方面にては運河堡附近よりの軍用列車は單に少量の糧秣と彈藥を輸送するに過ぎざるより彼等は例に依りて掠奪的徴發を爲し之れを撫順に蓄積し以て敵左翼軍一帶の供給に應じ居るの有樣なるが故に撫順の價値は彼れ等に沿實に尠少のものにあらず夫れと同時に奉天の外廓として十分我軍を牽制するに足るの地點なるを以て一時は前述する如く黒溝臺會戰後其兵を割きて增援せしめたるも今や再び敵左翼の主力を撫順に集中し之を死守し居るもの如し而して撫順を本據とせる敵は有力なる部隊を派し我成歡軍の進攻を沮止すべく常に其機會を伺ひつゝ時に或は四子樹附近迄も進襲する而已ならず一週二回位ひは必らず夜襲を試み居りしが如何せん我軍には未だ全く新設備の完からざるものありしを以て自重して攻て進まず一向に守備行動を執りつゝありし鈴木、東肥老騎隊は二月十九日に於て前進開始の命令に接受したるを以て久しく脾肉の嘆を發し居たりし東肥健兒隊は奮躍するとしもはず威風堂々として先づ馬家溝子(蒼子谷と成歡との中間)の敵を擊攘し廿二日を以て蒼子谷の敵を擊しに奮鬪數刻に亘り遂に之を占領したるが我老騎隊に於ても千葉大尉(嵐岳)戰死し小原中佐、成杉中尉、戸山少尉等は負傷して翌廿三日成歡なる豫備病院に收容せられたるは遺憾なり

電報

●全軍の大活動

（本日午前十時四十分東京發）

我全軍大活動し一軍は敵の退却路を絶てり我主力は正面殺倒しつゝあり

●敵奉天を退却す

全上

敵は奉天を退却大混亂を極め我軍盛に追擊中也　我軍追擊中

（以上二件昨日號外再錄）

●大山元帥公報

（昨日午前領事館着）

敵は各方面に於て擊破せられ水曜日早朝退却を始め我軍は目下猛烈に之を追擊せり

京城通信

（三月四日午后八時）

▲留任請願　全羅南道人民等内部に進報を送り賛政李根澔再任の事は本道人民數百名議決請願する處なれば民の願ひを聞入れ陛下に上奏せんことを請ふと

▲一進會と郡守　蕪岐郡の報告によれば一進會長李鎭衡會員七人を連れ施政改善官吏の貪虐無名稅の徵收人權　自由財產保護等の事に關して各境内に廣告し郡に實施を迫ると云ふ同郡郡守の報告によれば一進會員人を派して郡内の戸口調査をなすを以て其の理由を問ひしに同會長の答ふ人命を保護し列强文明とする所以を定めざる可らず詔勅を奉承して會員を派遣して戸口の調査をなすと然し依未だ詔勅を奉承せず甚だ怪訝に堪へずと云々

▲内藏院の出火　本日午時内藏院より出火し一戸を燒き幸にして鎭火したり

▲奏任官敍任協議　本日午後二時より政府會議を開き各官廳の奏任官敍任に關し協議する處ありと

▷合同條約修正　高橋亨と合同年期三年を二ヶ年に英語教師も二ヶ年に漢語教師も二ヶ年に改正したりと云ふ

△其の内容　三教師を解雇する時は三ヶ月前に解雇の事を通知し然る後之を行ふものとす解約の時は俸給及び回國旅費を支給し俸給の三ヶ月の分を加給す若し教師より解雇を願ふときは月俸及び歸國費を支給するのみ也

大邱通信

（三月六日特派員發）

●道路開築事業　當地に於ける邦人將來の居留地とも云ふべき東北門外より西門外に亘る一帶の地は是迄家屋の配置は道路らしき道路あるとなく所て家屋の向き三々五々或は西し或は東し各自勝手に建築しある爲めに一種似しげなる街路を生じ永遠の發展上大に障碍となるべきを以て北門外停車場を起點とし新に完全なる道路を開築するの必要は夙くに居留者間の唱道する所となり當地に於ける一大急要問題として當事者間に講究されつゝありしか昨日に至り愈々其設計をなし既に停車場附近より若々實手せる模樣なるが其幹線とも云ふべきは二條にして一は停車場前より西北に走せ土肥商廣手に出で更らに回轉して西門外に延長し一線は停車場前より東門外に延したるものにて而線共幾多の分岐線を生じ縱横交錯恭面の如き狀を呈し今日の設計として可也復雜にして兩側に出來居れるやの感あり今日にして既に道路の豫定線定まらば今後家屋の建築者は其規定に則り惑ふ所なく永遠的設計に出るを得べく勞々一般の發展上大に利する所あるべきは無論なれば其後建築路線過の用地となるべき地區なれば其道路經過の用地となるべき地區を有せらるゝ諸氏は此際猥りに私心を挾むなく公共の爲め新て供するの途に出られたしとなり因て該事業の經營は專ら居留民は其任に當りつゝあるが這回の設計及施設等に鐵道會社の厚意に爲れるもの由聯して然らば居留民は同社の此義擧に對し感謝の念と沸ひ併せて其此に至らしめたる戸倉副會頭の勞を稱ふて可也

△共進會員の入邱　數日前京城に於ける同會員數人郡廳北支府商業會議所長李徹宰の名を以て一般商業者へ對し票書を配給し一見無賴不良の徒と判別し易からしめ以て商業の安寧を保ち草賊發生を斷たん云々の文意を以て一昨日來各處へ掲示したり

▲火賊討伐　秋風嶺地方に火賊群起して不穩の狀あるまでは逐次報道を怠らざる所なるか這回觀察使より政府へ報告の結果愈々昨日鎭衛隊を派遣すべき旨の電命に接したるやにて本日兵士七名を該地方にはしめ以て討伐に從事せしめん筈なりといふ

△評議員總會　二月の補缺選擧施行以來今に一回の集會を催さざりし當民會評議員總會は昨日午後民會役場に於て召集し其重要問題の報告をなし尚は來る三十八年度豫算に就て議する所あり詳細は追て報すべし

▲天然痘の流行　過月來當地に於て天然痘發生し邦人一名の患者ありたる旨は前信報せし所なるが其後該患者續々發生し既に五名に及び尚は蔓延の徴ありと夫れに就き居留民會にては邦人一般へ對し豫防として種痘を實行せしむべく既に當邊病院より注文に及びたる由なれば今明日着の上早速手を分け施行すべき筈なり一方相當の手續きを以て韓人一般へも强制的種痘を爲さしむるの要あるべし

△佐賀縣人懇親會　昨八日午後八時當地在留の同縣人懇親會を北門外明石亭に於て開く會する者の二十余名酒三行茶番餘興等ありて盛會なりきといふ

▲稲荷祠事祀　當地の富田某願主として山城國伏見稲荷神社の分身を東門外讃德里に奉遷昨八日の初午を期し鎭座式の擧行あり信者の參詣も少からざりしと蓋し太邱に於ける日本神社奉齋の嚆矢なるべしム菊池長應氏　京城大東新報の同氏は去七日歸朝の途次當地一泊昨日の二番にて釜山にむかはる

●韓船の北韓航路解禁　元山以北城津に至る航路は日本商船は勿論朝鮮船に至る迄一切航路を禁止しありしが其筋にては韓船に限り去二十八日を以て城津に廻航するとを許可せり廻船に對しては目下城津以南は大豆輸出期に近づきたれば此解放と同時に元山貿易の盛況を添ふるに至るは遠からざるべしといふ

●中學校と農商學校　我政府は在韓居留民子弟教育の必要上京城に中學校、釜山に商業學校、群山に農學校を設置すべしと云ふ

●草梁停車場改築說　草梁停車場は京釜鐵道の起點地たるにも係らず其の建築頗る倭少且つ今後草釜間連絡の說さへあるより改築の說熾んに起り既に某建築受負者に於て工事の規模見込を思はしからざるより交涉中なりと

●大東運輸會社の披露宴會　大東運輸會社にては今回草梁に出張店を設立し盛んに運輸業を開始する筈也右に付き一昨夜蝸戸樓に披露の祝宴を開きたり來會者は石崎商船生折兩支店長、水野、荻野、岡本、淺岡氏等々實業家數十人にして同會社主八富田氏の披露の辭あり二三氏の祝辭演說終りて紅裙座間に周旋し非常の盛會なりき

●婦人會發起式　當港婦人會の事業なる養蠶教習は昨年中より建築受負古川氏の盡力にて建築工事に從ひ居りしが昨日上棟式を擧行する迄に至れり

△各商店の模樣　五六日前より市内到る處活氣立ち居れるは祖國興行の爲めにて例年の如く商況活動の期に入りし爲めならんかされば商店又新く軒足を加へ來れるもの如し

●綿花の需用減少　昨年は冬期において例年に見る能はざるの暖氣なりし爲め一般綿花の需要少ながらざりしが昨今に至り更らに暖溫を加へ來るに依り該品の需要愈々減少せんとす

●船具の需要甚はしからず　木浦、仁川行を初め韓國各港一の交通船は未だ當港を起點とするの運び付かざるに依り自然船具の需要思はすから全盛し必要に驅らるゝも當夜にして門司、馬關に着するを得るによりて全地に於いて需要を充たすを以て斯かる悲況を呈し居る次第なりといふ

●青年會と改稱　釜山興志會は今回青年會と改稱したりと來る十二日午後七時より西山下弘道館に於て開催する由也

●大邱同志會　大邱にては同志會を組織し左の通り規則を設けたり

第一條　本會を大邱同志會と稱し事務所を浄土宗布教所内に置く

第二條　本會は和衷協同優美の氣風を養成し日本國民たるべき品格を自重せしむるを以て目的とす

第三條　本會は毎月一回集會を催し各目的を達するよ最良なる方法を研究し傍ら知識交換をなす但し時々知名の人士を聘し講話を聞くことあるべし

第四條　本會員は信義を以て世間に交り和合を以て一家を修め勤儉を旨とし奢に逸せざるにとを勉むべし

第五條　本會に左の職員を置く

一會長　一名　一幹事　三名

一評議員　拾貳名

第六條　本會々長には浄土宗布教所主任を推選し幹事評議員は正會員の互撰各任期滿一ヶ年となす但し再選するも妨なし

第七條　會長は本會を總轄し幹事は事務を分擔し評議員は議事に参與す

第八條　會員を分ちて名譽會員特別會員正會員の三種となす

名譽會員とは名望家にして本會の講話を諾せられたる者

特別會員とは本會主旨を贊し特別扶助をなす者

正會員とは定規の入會をなし毎月會費を收むる者

第九條　本會員にして若し破倫沒節の行爲あるときは評議員會に附し除名することあるべし

第拾條　正會員の會費は壹ヶ月金拾錢となし毎月之を徴集す

第拾壹條　決算報告は毎年六月十二月二期に分ち會計より幹事事務員一同に報告するものとす

第拾貳條　會計庶務等の事務は幹事間に於て分擔す

第十參條　本會に加入し又退會せんとするものは口頭或は書面を以て申告し會長の承認を享くるものとす

第十四條　本會員の宅に於て若し凶事ある場合は　會より總代を派し懇篤慰藉す

第十五條　規則は評議員の決議を經るにあらざれば變更することを得

●日語夜學會　韓人を啓發する目的にて大邱の有志家は左の會を設立し規則を擬定したり

第一條　本會を大邱日語夜學會と稱し浄土宗布教所内に置く

第二條　本會は韓國國民の智能を啓發し德義を養成し倍彼我の交情を親密ならしめんが爲め日語を教授するを以て目的とす

第三條　本會に左の職員を置く

一會長　壹名　一教諭　貳名

一幹事　壹名

第四條　會長は會を總理し教諭は教育を司り幹事は學生を監督す

第五條　會長は浄土宗布教所主任之に當たり教諭幹事は會長之を撰ぶ

第六條　本會に入會せんと欲するものは左の書式に準し入會願書を幹事に差出し會長の認可を享くべし

入會願

私儀貴會に入會仕り候上は謹て規則を遵守し專心日語勉强可致候間御許可被下度此段御願申上候也

年　月　日　住所　氏名　印

日語夜學會長宛

第七條　入會志願者は左の資格を具備するものに限る

一年齡滿十歲より三十歲以下一品行方正志望確實なるもの一身体健全なるもの

第八條　假令入會後と雖本會の体面を傷かす行爲あるときは職員の評議に附し退會を命ず

第九條　本會は毎日午後七時に始まり同九時に終る但日の長短に由り伸縮することあるべし

第十條　會の學生は月謝を要せず但し時として油炭等の實費を徵集することあるべし

第十一條　教授に係はる細則は會長別に之を定む

●第二期は本日　釜山、栢寺兩罐詰製造所において製出中なる軍用罐詰は本日か第二期しめ切期日なりと

●加德島への渡航者　本年に至りて加德島へ當港經由の上渡航したる者は七十六名なりといふ

●釜山精米所の器機增設　釜山精米所が器機增設の計畫中なりしことは過日も記載したるが愈々右の運びにつき不日据付に至るべしといふ

●驛夫募集　京釜鐵道は臨時驛夫を募集し居る由年齡は十七歲以上二十五歲以内体格强壯視力完全普通教育を受け身元確實なる保証人あるものは最初日給四十錢位に採用する由なれば志願者は直に同鐵道運輸課に履歷書を持參申込まるべし

◎小川三郎氏　釜山罐詰製造所主任同氏は目下門司にあり二三日中歸來の筈

◎山口縣の韓海漁業獎勵　在釜山水產組合創業の際より十年一日の如く在勤せる林駒生氏(杉山茂丸實弟)は海漁業に就ては最も經驗に富めるを以て聲名ある人故に過般水產局長、韓海一帶を巡視したる時の如き氏を以て之れが東道とせしめたる位なりしが此は今回渡邊本縣知事の請求に應じ韓海通漁獎勵の爲め本縣技師と同行約一ヶ月の豫定を以て本縣全海岸の漁村に對し巡回講話を爲すべく去五日入港の安東丸にて着關直に山口に向ひ發途せり

◎福岡縣の韓海漁業　福岡縣會は韓海漁業の名義を以て補助を與ふる事の決議を爲したり又筑豐水產聯合組合長黒木太郎氏及朝鮮海水產組合代議員たる太田種次郎氏外四五名は近々渡韓福岡縣の韓海漁業に對し大いに將來に付き設備する所ありと

◎高知縣人の韓海漁業計畫　高知縣水產組合副組長河野指緊氏同取締役松繩三の兩氏は昨年九月以來韓海通漁狀況視察の爲め四隻の漁船を率ひ元山仁川間に於ける漁區の形勢漁業實況等の調査に從事中なりしが其結果成案を得て昨日歸國直に鄕里高知に向ふ歸途に就けり氏等の計畫なりといふを聞くに高知縣のみにても海岸線百余里を有せる故に到自縣下に漁夫を募集遠く韓海に漁るは事情の許さゞるものありて韓國出漁の事未だ其例なかりしが爲め今回大組織の韓海漁業は他縣より熟練なる老漁夫を雇入れ教師とするの必要あるを以て大分、山口、廣島の三縣より右漁業教師を雇入れたる上今より一ヶ月内には渡航する豫定なりと

▲入社の辭　丸居蝶郎

蝶と云ふたつて、やさしいものでも、風流氣でもと男に候はず、固とか武人のなりかたない、無骨無風流の者で所詮れ婦人方のお氣に召す樣な者でもない、ついに日本三界から飛び出して、社會人のお蔭に預つた譯で、數千の讀者諸君へ見みなても滿足通りの事は當然も覺束ない、元來か文藝と云ふものは限りないもので、人の力は限りあるもので、限りのない藝を、限りある力でやるのです況や闇面渺學の余蠻の及ぶ處ではない、まあ〳〵我輩の讀んで居る處の社には厭な奴か入社したとお怒りなく、何にが兩の約束事とてもれ諒めなつてお引立を被ります

朝鮮日報

◎朝鮮日報は韓國經營大發展の氣運に由て生れたる韓國第一の大新聞也

◎朝鮮日報は韓國の政治經濟より商工及漁業等に關し精細なる記事を有す

◎朝鮮日報は京城、元山及門司に支社を有す

◎朝鮮日報は京城、仁川、義州、安東縣、營口、大連、天津、門司、木浦、馬山浦、群山、大邱、曹山等に通信員を有す

◎朝鮮日報は韓內地に新事業を起さんとする者の好伴侶也

◎朝鮮日報は韓國に於ける我居留地との商取引關係ある者に對し有益なる指針也

◎朝鮮日報は韓內地の起業調査及釜山京城、仁川、元山、木浦、馬山、大邱、曹山等、商業界に關し詳細なる報道を爲す

◎朝鮮日報は門司及下關に新聞賣捌所及び廣告取次所を有す

◎朝鮮日報一ヶ月金三十錢　廣告料普通十九字詰一行一日金十三錢

韓國釜山大廳町二七　朝鮮日報社

●釜山天氣豫報

北又西の風（三月十一日）

●韓錢相場

朝鮮日報

小説 佛蘭西騎兵の花（廿二）

英國 コーナンドイル作　日本 梅村隱士譯

世良田は少年の時に一英人に就いて英語を習つた事の有難さが今になつて始めて解つた。

此時足の紐は殆ど解けて居たので世良田は自分の劍の置いてある處に飛んで行つて之を掴んだ、それから次に憐むべき馬場氏の乘馬の上に打跨つたから佛蘭西騎兵の花たる世良田大佐は是から立派な一人前の武士となつて戰ふ事が出來るのだ。

世良田は足の痛みの爲に鐙に足を蹈掛ける事は出來なかつたが馬の背に上るのは只の一躍であつたれど此時山賊共はピストルを向けて世良田を射らんとしたけれども彼時早し此時遲し世良田は英國騎兵の後に隱れて終つた。

「降參します」

と世良田は不完全なる英語にて呼んで英國士官の注意を牽きつゝ、

「彼處の木を御覽なさい、此惡黨共は名譽ある紳士を捕へて斯樣な殘忍な事をするのです」

此時焚火の焔が山風に吹きあほられてぱつと明くなつたから馬場の死骸の恐ろしい有樣をば此新來の人々に示す事が出來た。

「畜生ッ」

と英國の士官も叫び出した、騎兵は四人共「畜生ッ」と叫んで五振りの劍は切先を並べ四騎は駒の頭を密集させた其內の下士の服を着てゐるのが世良田の肩を叩いて笑ひながら斯う云つた。

「遣付けて終まはうではないか」

世良田は兩脚の間に馬と手に劍を握る事が出來たので最早何者をも恐れない、彼は頭の上高く其劍を振り廻して武者聲を揚げた然るに賊魁若智路は例の冷かな笑顏を作つて英國士官の方に進んで來た。

「閣下、此佛蘭西人は我々の捕虜であります。」

「此樣等は惡黨の盜賊だ。」

と劍の切先を差付けて英國士官は怒鳴つた、

「自分の國に貴樣の樣な輩がゐるのは恥辱だ、若し自分がウエリントン將軍だつたら貴樣等は皆此處の木の枝に縛り下げるのだ。」

と云つたが、賊魁は尙惡々敷い程沈着いて居る。

「併し君の捕虜は返して下さいますか」

「英國の軍營に連れて行くんだ」

「一寸、お待ち下さい、[illegible]お耳に入れて置く事があります」

若智路は英國士官に近かんとして、[illegible]如く身をかはし世良田の顏に向つてピストルを投げ付つた。銃丸は世良田の軍帽を射拔いて兩方に穴を開けた、彼は仕損じたと見て再び短銃を握つた手を上げんとしたが英國の下士は後に拂つて一撃の下に若智路の頸を皮ばかりにして其頭をぶら下らせた其血汐が地に滴り落ちぬ前に、其最後の[illegible]居を去らぬ前に、其手下の者は一齊に躍りにして溪間の平地の方に驅け下るのであつた。

世良田等の一行は溪間の平地に出て、後を見返ると最早賊徒が追ふて來る模樣もないからサテ我々の損害はどうあつたかを檢べて見ると。

世良田は元來が負傷して居たのであるから夫れ以上の傷は受けなかつたにせよ、身体は非常に疲れてゐる、而しながら心中の愉快は禁ずる事を得ない、殆んど其胸の鼓動の爲に軍服の上衣が張り切れさうにあるのだそれと云ふのは、世良田大佐と云ふ名前を彼の山賊の中に終世忘る可らざるものとして殘したるま丶身は安全に逃れ出て來たのであるから

雜報

廓のつぼみ（拾五だわ）

今、まこと紅風の道すたれて牛飲馬食に[illegible]らされば鄕塾放吟を快とする唄非粹人の蔓れる[illegible]に古昔ぶりの粹の香は花柳界の地を拂はむとするあそ口惜しけれ、佐須士原廓に可愛い愛嬌貫ゐる雛妓にお千惠といふがあり某客の誤つて拾七かと評せりしにイヤよ拾五だわと涼しい眼で怨からず睨んで見せしは世の無邪氣さ、三絃は小さい膝に乘りきらぬにろ重げよ彈く手は確か、から「アーラ、小隊中隊大隊聯隊ネ、勇ましや、紙鳶師團が突貫して占領するー」と、金調の動もすれば否の紛れんとするあそ眞に可愛いもの[illegible]賓も漸やく更けて唄やめば獨り狼藉たる杯盤の隅に一人何やらせるを殊へば餅の花を彈きて餘念なく遊べるなり、ポ、ヘお樂しみネと揶揄へば、ダッテ何もせぬと眠たうなるんだもの一と答えたるなど一入に惜い性なり、さはされど花の口元に笑を含みつゝ「雨と風とが、なかりせば、花は散るまい咲きもせぬ」と、謡ふは早くも浮世の戰場に馳せ出でゝ天晴れ雨に打たれ風にも吹かれて[illegible]の名を磨かんとの覺悟さだ先しにやわらんと思へ[illegible]の目に入らで流く籬の下に咲けるぞうれし

昨夜の火事

昨夜八時頃辨天町[illegible]より火を失し忽ち[illegible]貨店、油田理髮店に延燒し火勢猛烈一時は全町を燒き盡さずんば止まざる程なりしが幸ひ風微力なりしと憲兵巡查が必死の消防力と消防夫相撲取達が大働きにより[illegible]吳服店、山川下駄屋を壞して辛くも鎭止むるを得たり、詳細は次號

●佐須土原の相撲（三日目）

●佐須土原より角力興行以來廓內の景氣よほど恢復致し來り[illegible]以來火の消たる如かりしあとへて何れも愁眉を開きたる觀有之候而かし此の景氣は長持致すみとにてはなかるべく候

勝 若狭山 桂川 瀧髮 今錦 一ノ矢（預）鳴戸岩 玉ノ森 友い 大江山 中入 鶴ヶ嶽 日出岩 飛付十人投 大江山 有登山

負 梅ヶ枝 八ッ幡 高越山 有馬山 一ッ引 春風 瀧川 長 瀧川 梅の矢 櫻川 有登山 外お 鶴ヶ濱 改心

勝 揚甲 大木戸 鳳凰 梅ヶ濱 岩ヶ谷 一力 小絲 朝日波 後 小松山（預）響洋 岡山八投 梅ヶ濱 好 瀧川 甲

負 大 高千穗 丸山 玉頭 岩角 改心 大瀧 増位山

四日め取組（本日）

日出岩 大部 大江山 朝日形 櫻川 小絲 小松山
響灘 鶴ヶ嶽 大江山 瀧川 増位山 増位山 大瀧
一ノ矢 梅ノ矢 玉ノ森 春風
鳴戸岩 一力 友 有馬山 長瀧 岩ヶ谷 大登 ッ引 鳥
梅ヶ濱 改心 岩角 今錦 甲 玉頭 稲

百字文

▲筆　なにがし
自惚れ文士や書畫家が惡批評の責任を負ひ遁る名人の手に掛かるもの、內は机上に擲ろい事屢々、なれども堪忍袋の緒も切ちず、頭の禿るまで、主に盡す汝は古武士が誠忠のそれに似て、床しくも勇し。

▲人間我觀　秋雨
世人貞操の美德を叫ぶ、されど美人に向つては之を破れと要求す、而して美人の肱鐵砲に逢へば悶え悲しみ且つ怒る人は得手勝手の動物なり。

▲マン事　やつお
暖かい春の日和に隣の木の下にマン事、美ちやんと庭の櫻の僕が婚さん、嫁さん眞最中フウと吹いて來た風に美ちやんか頭の上に花が二ヒラ三ヒラ

天狗世界　佐須土原案內生投

嬉しい情けは身に沁みて富士も及ばぬ密か樓
第一と[illegible]心に染まぬいろは樓
牡丹屋に女郎花色香よ全よふ師風樓
可愛の聲や阿菜の聲や鳴り響いた電氣樓
嬢に波なす色君の手管あらざる安樂亭
六十余州八道も之れ見まかしと股にかけたる日韓樓



▲佐須土原に近頃出來た辻酒造店の下女は中々釜山では珍らしい行儀の好い女だ禮儀廢れたる此の釜山にまんな女のあると云ふのは畢竟其の家庭の好いのだろう（隈川）▲初渡韓者の先づ異樣の感じに打たれるのは勞働韓人だ日本でならば十八世紀時代の雲助ム樣だ（初渡韓者）▲入江町の或る下宿屋へは怪しき二十五六の色淺黑い丸ボチャの女が繁く出入してスキな男に貢をして居りますよ（肚目生）▲商品廣告中大抵は直段を記入しあらず隨分不便利の事だ可成的直段をも廣告しては如何でげす（需要生）▲本社の投書箱をポストと間違ひて時々郵書が這入つて居つて予は面倒ですから以後注意して被下い（係り）▲貴社の月曜廣告は僕も大賛成だ併し廣告主にも少し趣向を凝してはドゥです先日の分では新堂、十字屋、柴田、園野など一寸面白かつた樣です（公平生）▲「やみの夜に鳴かぬ鳥の聲きけば生れぬ先の親ぞ戀しき」此の意味御承知の方は敎へ給へ（和歌欄生）▲西町邊に住んで居る女は晝は姿を隱し夜分になると姿を現して男の獨世帶して居る家へ出入する怪物多し其筋の取締を望む（風紀衞生）▲十字屋主人淺岡君近頃御起居如何遊ばされ候や伺上候（みつ子）